

# 子どもの睡眠

「健康な心と体をつくる睡眠パワー」

とき／1月18日(月)  
19:00～20:30  
ところ／あやめ会館  
会議室



内容／子どもの不適切な睡眠習慣が心身に与える影響や、睡眠が心の安定、脳や体の成長、将来的な自立にいかん重要であるかを、医学的な観点から話します。

講師／佐久間哲也先生

(MOA奥熱海クリニック院長)

参加費／無料

対象／子育て中の保護者

定員／40人(定員を超えた場合は抽選)

申込方法／電話、または市ホームページ

で、社会教育課までご連絡ください。

申込締切日／1月6日(水)

市役所社会教育課  
☎0555(948)1461

## 図書館だより

今月のおすすめ ～100かいだてのいえ～

縦に開いて大迫力、発見も一杯の楽しい絵本シリーズ。「ちか100かいだてのいえ」もあります。



『100かいだてのいえ』  
いわいとしお(作)／偕成社

100階だての家のてっぺんに住む誰かから手紙をもらったトチくん。空までとどく不思議な家をのぼってのぼって、100階までたどり着けるかな? 【全館】



『うみの100かいだてのいえ』  
いわいとしお(作)／偕成社

船から海に落ちてしまった人形のテンちゃん。沈んだ服やくつを取り戻すため、いろいろな海の生き物が住む不思議な家をどんどんおりにていきます。 【全館】

いわいさん、本人が登場!!

ぼくたちのわたしたちの  
100かいだてのいえをつくらう!  
～ワークショップ～

「100かいだてのいえ」の著者、いわいとしおさんを招いて、みんなで100かいだてのいえをつくりま

とき／1月23日(土)

13:30～15:30(予定)

ところ／中央図書館 2階視聴覚室

対象／幼児～小学生とその保護者(親子) 50組  
(子どもが50人になった時点で締切)(先着順)

講師／いわいとしお氏(絵本作家・メディアアーティスト)

参加費／無料

持ち物／鉛筆、消しゴム、はさみ、色鉛筆、色マジック、のり

申込方法／12月12日(土)9:00から中央図書館窓口のみで受付します。

※電話での申込は、受け付けしません。

### 紙芝居講座 参加者募集!

紙芝居の演じ方を基礎から実践まで学んでみませんか?今まで、紙芝居の演じ方で悩んでいた人。こんな読み方でいいの?と疑問を持っていた人。どうぞご参加ください。楽しく、わかりやすく学ぶことができますよ!

とき／1月20日(水)・27日(水)・2月3日(水)・17日(水) (4日間)  
10:00～12:00

ところ／中央図書館2階 視聴覚室

講師／上原佐恵子氏(しずおか紙芝居研究会主宰・伊豆おはなし連絡会代表)

参加費／無料

対象／紙芝居・読み聞かせに関心のある人  
(全4回に参加できる人) 20人

申込方法／12月1日(火)～25日(金)の間に、中央図書館カウンター、または電話で申し込みください。

図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/> ☎中央図書館 0558-76-5566

12月の休館日  
中央図書館 7日(月)、14日(月)、21日(月)、23日(水・祝)、28日(月)～1月4日(月)  
菰山図書館 2日(水)、9日(水)、16日(水)、23日(水・祝)、24日(木)、28日(月)～1月4日(月)  
長岡図書館 7日(月)、14日(月)、21日(月)、23日(水・祝)、28日(月)～1月4日(月)

## 文化財通信

その126

### 伊豆の国と都の古代の物流史

市役所文化財課  
☎055-948-1428



花坂島橋古窯跡出土の壺

現代の私たちの日常には、多くの物の移動がみられます。それは多くの人と時間を介して、さまざまな場所へ運ばれています。今回は、今から1300年前の奈良・平安時代、600km以上も離れた伊豆から当時の都へと移動した「壺」から、これまで知られていない古代の物流の歴史に触れてみたいと思います。伊豆の国市内の花坂島橋古窯跡は、奈良・平安時代の瓦やうつわの生産を支えた重要な窯跡であったことがわかっています。平成6年の発掘調査では、瓦片とともに徳利に似た形をした壺が見つかっています。この壺は非常に特異な形状を示すもので伊豆と駿河の窯

跡からしか発見されていません。また、同じものが平城京や長岡京の都で多く出土していることから、伊豆の国市や駿河で生産され、都へと運ばれていたことがわかります。用途については、はっきりしていませんが、当時の税として徴収される地方産物の一つである鰹の煮汁を入れ運んだという説、水筒だという説などさまざまな説が挙げられています。鰹の煮汁を運んだという説を裏付ける資料として、奈良の平城京から出土した木簡(奈良時代の紙に代わる文字資料)があります。天平2年(730)10月に伊豆国田方郡から送られたとみられる木簡には「鰹魚 十一斤 十兩」とあり、駿河湾の特産として鰹汁が送られていたことが示されているのです。遠い都の地で発見された特異な壺と木簡は、1300年前の古代の社会を支えたものの歴史を伺える、貴重な資料の一つといえます。この壺は現在、菰山郷土史料館2階で展示しています。